



2016年 11月4日 金曜日
(平成28年)

知の創造

▷22◁

■越族の伝統と阮朝王宮
ベトナム中部の古都フエと王都の建築に関する研究を続けている。フエは19世紀初頭に成立した阮朝が都を置いたこと知られ、かつての王宮建築群はユネスコ世界文化遺産に登録されています。

阮朝を興した阮氏は、16世紀中ごろに北部越族の宮廷から中部地域の制圧のために派遣された武人として知られ、南シナ海交易の拠点を押さえて中部地域で繁栄し、やがてベトナムを統一に導きます。彼らは北部越族の出身者であ

り、その宮殿にも北部越族の文化が継承されるのが自然な流れでありました。しかしながら、われわれが今日フエで目にする木造建築文化は北部越族のそれとは大きく異なるものです。

方法などその設計方法は比較的推測が容易なものです。一方、フエで見られる登り梁ケオ式の架構は他に類例の無い独特の建築方法であり、一見してどのような設計

備が着々と進められる途上で、実はその基礎となる技術がよからないうい状況は80度に固定するのが原則であると判明しました。

■直角定規か三角定規か
建築の世界では勾配については水平方向に進んだ長さ

使用される水進まで洗練し、登り梁ケオ式架構として形式化したことがフエの木造建築の最大の特徴といえます。

林英昭 建設学科 講師

王宮建築の謎に挑む



はやし・ひであき 70年生まれ。早稲田大学大学院理工学研究科後期博士課程修了。博士(工学)。早稲田大学理工学術院助手、同客員講師を経て、2010年4月より現職。専門は東洋建築史。

登り梁ケオ式の架構は、例えは、北部越族の木造建築は水平梁を重ねて屋根を形成するのに対し、フエの木造建築は「ケオ」と呼ばれる登り梁を柱頂部へ輪置き込むことで棟木を支えています。北部のそれは中華的な建築文化の延長で考えても納得のいくものですし、屋根勾配の設定例がなく、荒廃した宮殿の整

木造建築技術に関する整理を対して鉛直方向に上がる高さを進めるために、現役の大工棟を以て制御し、その設計には梁への聞き取り調査等を進め、主に直角定規が用いられるの結果、登り梁ケオ式架構の一般的な設計には「版尺」と呼ばれる建築であったも、正確に設計

■阮朝王宮の大きいなる謎
フエの三角定規は従来は住宅等の比較的小さい規模の建築に用いられた設計方法であったはずですが、この素朴な設計方法を大規模な宮殿建築に

■阮朝王宮の大きいなる謎
阮朝は越族が樹立した王朝にも関わらず、その宮殿は越族の伝統とは大きく異なる方法で建てられた。その事実だけでなく、いろいろな経緯が想像されます。ほかに類例がないために、現状ではこの登り梁ケオ式架構の出自は全くの謎です。なぜ阮朝は正統的な越族の伝統を退けたか。王宮の大きいなる謎の解明を目指し、日夜調査研究を続けています。